

東日本ユニオンにいがた

http://www.geocities.jp/higashinihonunion_niigata/

JR東日本労働組合新潟地方本部

2018年7月1日発行

第31号（通巻第95号）

発行者：星山 圭 編集者：教育・広報部

東日本ユニオンに 結集しよう！



各地で新たな仲間が
続々加入しています！

これまでJRでは、現場調査や資料作成など約14名で、5月から9月までの4カ月をかけて年間計画を作ってきたのに対して、P社が5〜6人で約1カ月で行うとする支社側の



越後湯沢エリアセンターに予算担当と用材担当を配置するよう求めましたが支社側は、いずれも担当として指定するが担当として配置しないと回答しました。交渉団は、長岡と湯沢の実質二箇所分を一人で担うことになり負担が増えることを指摘しましたが支社側は、入力業務は増えるがそこまで負担増とは考えていないとの考えを示しました。仕事は変わらず業務量は減る中で、なぜ1名を削減するのか質しましたが

交渉団は、7月1日の実施日ありきの会社姿勢が明らかになりました。施策実施後に生じる問題について、職場からチェックを行っていきます。

エリア変更に伴う足口連絡により、現地の業務でスについての考え方を求めているJR社員かP社と支社側は、柏崎保線社員がいないか等を聞技術センターのエリアがいて、いなければ技術センターから行くとして、エリア変更をする境界付近で、境界付近に行っているパートナー会社（以下「P社」）社員でもJR社員でも早く行けるように調整していくとしました。調整の意味を質すと支社は、技術センター間のエリア変更に伴い足ロス

平成31年度の年間計画策定のスケジュールとフローを具体的に明らかにするよう求めました。支社側は、7月末までにJRが保技セとして方針策定・資料作成の説明を行い、P社は8月10日頃に修繕提案書作成の実施計画を提出、以降、10月上旬にP社が修繕提案書作成実績を起案し、同月中旬までに支社ヒヤリング等による計画修正を行うとするスケジュールを示しました。

説明に対して、このスケジュールでは無理だと指摘しました。支社側が「P社と打ち合わせて進めていく」「P社と契約して年間的な部分を話し協力して進めていく」と繰り返したため、交渉団は出来るとする根拠が不明瞭だと指摘、この

越後湯沢エリアセンターに予算担当と用材担当を配置するよう求めましたが支社側は、いずれも担当として指定するが担当として配置しないと回答しました。交渉団は、長岡と湯沢の実質二箇所分を一人で担うことになり負担が増えることを指摘しましたが支社側は、入力業務は増えるがそこまで負担増とは考えていないとの考えを示しました。仕事は変わらず業務量は減る中で、なぜ1名を削減するのか質しましたが

交渉団は、7月1日の実施日ありきの会社姿勢が明らかになりました。施策実施後に生じる問題について、職場からチェックを行っていきます。

足ロスは認めないと主張し平行線

新潟地本は6月13日、申19号「保線部門におけるメンテナンス体制の最適化申し入れ」の団体交渉を行いました。施策を担う現場の実態を無視し、安全、健康、ゆとり、働き甲斐が担保されない中で7月1日実施延期を求めた組合側に対して支社側は、検討するとして項目もある一方で準備が出来たと繰り返し、議論は平行線に終わりました。

現場実態と支社認識の乖離が明確に

が増えるとの認識はあるが、極論を言えば仕方がなく、若干でも変えたいとの考えを示しました。地本交渉団は、足ロスの増えることによる社員の負担増は認められないと主張し、少しでも精神的な負担を軽減するよう求めましたが、支社側は負担が増えることは認めつつも、負担軽減を図る具体的な

実施日ありきの姿勢を厳しく追及

交渉を通じて、支社側が準備は整ったとする内容はルールの改正や設備面などについてであり、施策を担う側の準備や意見は反映されないことが明らかにになりました。P社の負担軽減について強く求め、支社側も検討して行くことで考えていることで確認しました。

日光・鬼怒川へ分会旅行

新潟新幹線運輸区分会は6月20日から1泊2日で分会旅行を行いました。マイクロバスを借りて新潟を出発！美味しいお酒を飲みながら、いざ鬼怒川温泉へ！ホテルでは温泉や、宴会での交流や余興を楽しみました。2日目は日光へ。陽明門の修復なった東照宮を訪れた旅行でした。（新潟新幹線運輸区分会 投稿）



現場実態を無視した施策は認められない
保線部門におけるメンテナンス体制の最適化申し入れ 団体交渉